

波などの自然災害があった時

してくれたと聞いておりま

Let's go to Santa Barbarai

鳥羽とサンタバーバラの姉妹都市提携45周年を記念して、サンタバーバラからシユナイダー市長ら19名が鳥羽へ来てくれました。11月13日に到着してから16日の朝、鳥羽を離れるまでの4日間、多くの鳥羽市民が歓迎のために、また、もてなしをするためにそれぞれの立場で活動していただきました。

は、サンタバーバラから同じように心配をしていた皆さまが被害を受けましたが、サンタバーバラから300万円を超える義援金が贈られました。この義援金を集めるために、パーティーが開催され、食べ物提供、催物に出演するかたも、出演料なしで参加してくれたそうです。こうして無料で提供してくれた人々、パーティーに有料で参加してくれた市民、さらに計画を立てて実行してくれたサンタバーバラ鳥羽姉妹都市交友会のみなさんに心より感謝したいと思います。特に、サンタバーバラ在住の脇田孝子さん、ハミルトン夫妻、そして交友会会長のリンドさんが中心となって活躍

す。鳥羽とサンタバーバラの友好関係が深く、長く続くということの大本にこのように熱心でまじめな人々が両市ともに存在するということ忘れてはなりません。14日に開催された記念式典には、在名古屋米国領事館のサリバン首席領事が出席してくださり、ルース駐日大使のメッセージを届けられました。150人以上の若い学生との交流が生まれたことを特に喜んでおられ、両市の友好親善が親密な個人のつながりを育み、日米両国を互いに身近なものにしたという内容でありました。式典の中でわたしから「友好提携50周年は、ぜひサンタバーバラでお祝いしましょう」と提案させていただきました。参加していた80数名の両市の市民は拍手で歓迎してくれました。

5年先のことですが、1人でも多くの鳥羽市民がサンタバーバラを訪れてほしいと思います。その訪問を目標に、少しずつ貯金でも始められる市民が増えることを期待いたします。

Let's go to Santa Barbarai

10月中旬の2日間、津市内の公共施設を会場に第45回三重県人権・同和教育研究大会が開催されました。この研究大会は、(社)三重県人権教育研究協議会が主催し、県内各地の保・幼・学校の教育関係者、行政の社会教育の担当者、さらにはさまざまな立場にある参加者が人権に関わる事実と実践を持ち寄り、互いに学び合うことを目的としています。そして、これまでの実践の成果にとどまらず、現在取り組んでいる実践や課題・反省点を含めた報告もされています。その真摯で誠実な報告をもとに、互いの取り組みの値打ちや、心の豊かさを学び合い、次の実践に生かそうと取り組んでいます。今回、わたしは「教育・保育の創造C(部落問題学習・人権学習)」の分科会に参加しました。分科会では、小学校2つ、中学校1つのレポート報告がなされました。その中の一つ、はじめて6年生を担当する教師が校内研修会や地区教育集会所の指導・助言を受けながら、学級の仲間づくりの課題と部落問題学習をつなげ、こどもたちが自分自身の生活を見つめ直し、心豊かに成長を続ける取り組みが報告されました。そこには、部落差別の問題に真正面から向き合い、個々のこどもたちに寄り添いつつ、時には家庭訪問をしながら保護者との連携を続ける地道な教師の姿がありました。部落差別の問題の解決には、「差別の現実から深く学ぶ」教育の営みを続けながら、こどもたちの「生活を高め未来を保障する」と共に、こどもたちの自己実現を阻む課題を解決するために、こどもの育ちに関わるさまざまな人々と連携しながら、人権文化に満ちあふれた保・幼・学校・地域づくりに取り組むことの大切さを改めて学びました。